

令和7年度 益城中学校 学校経営構想

○日本国憲法・教育基本法
○熊本県児童・生徒教育指導の指針
○第2期熊本県教育振興基本計画
○県教委・教育庁各課取組の方向
○上益城教育事務所取組の方向
○益城中学校教育努力目標・重点取組

学 校 教 育 目 標

**自ら学び 自他を尊重して
共に未来を創造する 生徒の育成**

○生徒の実態（特徴や願い）
○教職員の実態（構成や願い）
○保護者の実態（連携体制や期待）
○地域社会の実態（協働体制や期待）
○教育資源の実態（近隣学校、機関等）

教科等横断的な視点に立った資質・能力（現代的な諸課題に対して求められる力）
ふるさとの仕事等に学び、自他の大切さを認めて協働し、進路の実現や地域づくりに向かって挑戦する力

学校として育成を目指す資質・能力

- ① **学びを生かす力** = 学んだことを、これまでの学びと関連付けて活用し、生活に生かしていく力（知識・技能の習得）
- ② **伝える力** = 自分の考えを伝え合い、見通しを持って課題を解決していく力（思考力、判断力、表現力等の育成）
- ③ **協働する力** = よりよい生き方や社会のために、自ら学び、協働して活動しようとする力（学びに向かい合う力、人間性等）

教科等横断的な視点に立った資質・能力（学習の基盤となる力）

情報活用能力（タブレット活用）、言語能力、問題発見・解決能力

三綱領 「文化創造」「自他敬愛」「勤労実践」

めざす学校像	めざす生徒像	めざす教職員像
○愛情と信頼のある学校 ○規律と活気のある学校 ○自信と誇りのある学校	○主体性や創造性に富む生徒 ○自他を認め、大切にする生徒 ○勤労を重んじ、実践する生徒	○生徒一人一人を大切にする教職員 ○使命感に溢れ、自己研鑽に励む教職員 ○人間性豊かで、情熱ある教職員

学 校 経 営 の 基 本 方 針

- 1 三綱領の精神のもと知・徳・体の調和のとれた“生きる力”を身に付け、夢と志を持ち、可能性に挑戦し続ける生徒の育成に努める。
- 2 教職員としての使命を深く自覚して研究と修養に励み、教育的愛情と豊かな人権感覚を持って生徒一人一人を大切にした教育を推進する。
- 3 よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るため、家庭や地域との連携及び協働を深め、活気に満ちた特色ある学校づくりに努める。

重 点 努 力 事 項

「確かな学力」の育成【文化創造】	「豊かな心」の育成【自他敬愛】	「健やかな体」の育成【勤労実践】
○「楽しく・ためになり・試してみ たくなる」授業づくりの実践 ○誰一人取り残さない学びの 保障と個に応じた指導の充実 ○学習規範と家庭学習習慣の確立	○「いじめ・不登校対策」の徹底と心の居場所づくり ○体験活動や道徳科の充実による道徳性の育成 ○生徒会活動等の充実による規範意識の醸成 ○教育相談と積極的な生徒指導による問題行動等の 未然防止と解消 ○社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の充実	○教育活動全体を通じた体力向上 ○危機を予測し、回避する能力を 高める安全・防災教育の充実 ○心身の健康を保持増進する 健康教育・食育の充実
人権教育の推進		
○推進体制強化と研修の充実 ○人権が尊重される人間関係・環境づくりの充実	○知的理解や人権感覚を育む人権学習の充実	
特別支援教育の充実		
○生徒の可能性を最大限に伸ばす教育の充実		
信頼される学校づくり		
○地域とともにある学校づくり ○潤いある美しい教育環境づくり	○不祥事防止と危機管理の徹底	

学級・学年経営、校務分掌、教育計画等における努力事項・具体的実践事項等による具現化

諸調査の活用とカリキュラムマネジメントと関連付けた学校評価の実施（昨年度の結果から目標値を設定）

数値
目標

「確かな学力」・・・「授業では課題解決に向け自ら考え取り組んでいる」（県学力調査：65%超）、「家庭学習は自分で計画を立てている」（県学力調査：75%超）、「本を全く読まない」（県学力調査：0%）、平均正答率（県学力調査：各教科全国平均以上）
「豊かな心」・・・「将来の夢や目標がある」（県学力調査：70%超）、「この学校の生徒でよかった」（下期の生徒評価：92%超）
「健やかな体」・・・県体力・運動能力調査で昨年度の平均を超える項目が半数以上
「人権教育」・・・「いじめや差別をなくすために学び、自分にできる行動をしている」（下期の生徒評価：80%超）
「特別支援教育」・・・「生徒のニーズに応じた支援を行うことに取り組んでいる」（下期の保護者評価：78%超）
「信頼される学校」・・・「便りやメール、HP等で発信を行うなど、保護者・地域との連携に取り組んでいる」（下期の保護者評価：84%超）